湊中

問題解決的な学習を通しての主体的・対話的で深い学びの研究

～まとめ、振り返り場面における評価の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　野田　明広

１　研究主題について

文部科学省が約 10 年ごとに改訂する「学習指導要領」が昨年度から全面実施され、平成２９年改訂学習指導要領による指導が始まった。新しい学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の三つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育んでいくことを目指し「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を重要視している。

昨年度本校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、導入段階における課題設定の工夫をテーマとして研究と実践に取り組んできた。生徒の課題意識を高め、自ら考える力や解決しようとする意欲につなげるために教師が導入場面で工夫を凝らし学習課題を設定したことで問題解決的な授業につなげることができた。

本年度は、まとめ・振り返り場面における評価の工夫について研究し、その評価を授業改善及び学習指導に生かしていきたい。

２　研究のねらい

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、まとめ・振り返り場面における評価を工夫した授業づくりに取り組むことで、問題解決的な学習の充実を図り、各教科等で目指す生徒の資質・能力の育成を目指す。

３　研究仮説

各教科等で、まとめ・振り返り場面の評価について工夫し生徒の振り返りを知れば、自分の授業を見直し生徒への指導に生かすことができる。

４　研究内容

(1) 単元で育成を目指す各教科で考える資質・能力を明確化

① 各教科の年間指導計画に単元ごとに 3 観点の評価規準を明記する。

② 各単元で最低 1 時間は問題解決的な授業を行う。

(2) まとめ・振り返り場面における評価の工夫

① 振り返りの観点や評価方法の具体例を提示する。

② まとめ・振り返りの評価の生かし方を探る。

(3) 校内研チェックシートによる教師の自己評価（Plan Do Check Action）

① 月ごとに校内研チェックシートを活用して自己評価を行う。

② 学期に１回、生徒から授業アンケートをとる。

(4) キャリア教育の推進（湊ロード）

① 全校統一で学期ごとに夢・挑戦・感動についてのワークシート（湊ロード）を記入する。

② 学期ごとにワークシートで振り返りをする。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者　等	全体会等
４	５	・今年度にかかわる研究主題の共通理解	全体会（共通理解）
４	２０	・校内研の流れについて	全体会（共通理解）
７	１３	・指導課訪問に向けて	全体会（共通理解）
９	２８	・指導案検討会	各教科ごとで話し合い
１０	１１	・教育指導課訪問（課題と対策）	各教科ごとで話し合い
１０	１３	・第１回授業研究（理科）要請訪問 授業者　教諭　谷地剛朋	全体会（共通理解）
１	１６	・授業参観週間（～２０日）	各教科ごと
２	１	・今年度の成果と課題について	全体会（共通理解）

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要　等
５	１８	・講義(まとめ・振り返り場面における評価の工夫について）講師 日向端聖
７	１３	・NRT 分析/考察
８	２３	・小中学校 JS 講演(特別支援教育の視点での授業作り）講師　野口和也
１１	２４	・講義(e-ライブラリーの活用の仕方について）講師　石井一二三

６　研究の成果

まとめ・振り返り場面における評価の工夫といっても、はじめはどのように進めていいかよくわからないところがあったが、指導課の先生方の講義を聞いて毎時間であったり単元であったりと様々な場面においての、より具体的な取り組み方を学ぶことができた。生徒に「まとめ」「振り返り」をさせることで生徒の理解度を確認し疑問点を知ることから次の指導に生かすことができた。

７　研究の課題

生徒の習熟度をさらに高めていくには家庭学習の定着をはかる必要がある。今年度は e-ライブラリーの活用についても研修できたので、生徒にそれを積極的に活用させたり、自主学習ノートを充実させたりするなどの手立てが必要だ。

（記入者　坂井恵美子）